

スマートシティ化の推進について

先端技術を活用して暮らしを快適に。

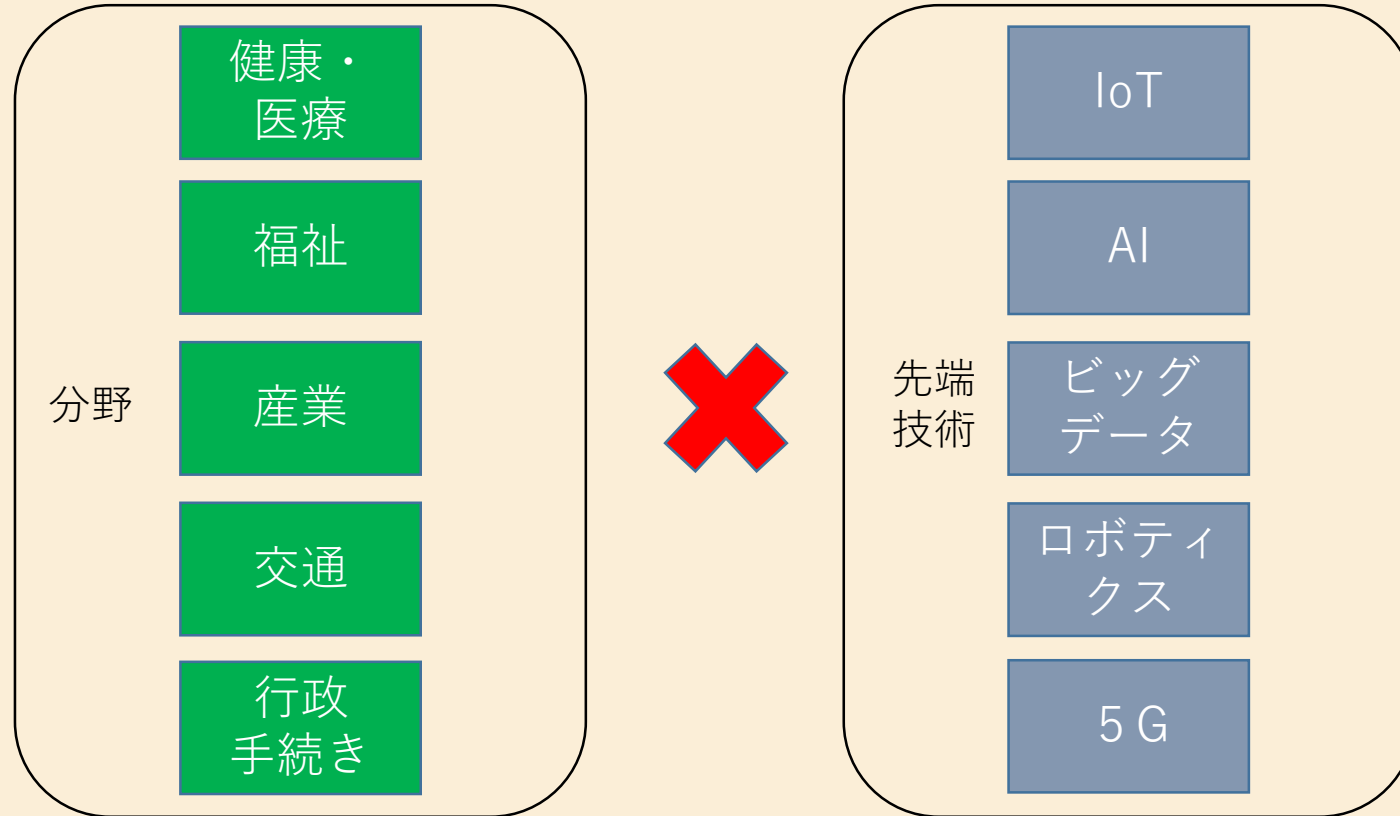


スマートシティの定義

※smart=賢い、利口な、情報化された

スマートシティ：都市や地域の機能やサービスを効率化・高度化し、生活の利便性や快適性を向上させるとともに、人々が安心・安全に暮らせる街（総務省）


スマート自治体：システムやAI等の技術を駆使して、効果的・効率的に行政サービスを提供する自治体（総務省）



快適性・利便性を向上させ、市民生活を豊かにする（QoLの向上・持続可能なまちづくり）

スマートシティ化推進の方向性

1. 枚方市のスマートシティ化

行政・事業者・市民などあらゆる主体が、スマートフォンを中心にICTを利用する場面（）を増やしていくことで、市民生活の利便性・快適性を高めていきます。



※（展望）取組の拡大・分野間のデータ連携

※展望（もう一歩先）

「スーパーシティ」=スマートシティ化の進展と大胆な規制改革による最先端の「まるごと未来都市」（ex. 生体認証等によってどこに行っても完全キャッシュレスの街。域内は自動運転のみなど）

2. スマート自治体としての枚方市役所

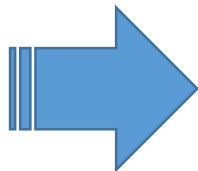
<これまでの課題>

待ち時間が長い

市役所に行く
時間がない

データベース
化の手間

コロナ感染症
への不安



取組一覧

- ① 申請手続きのオンライン化を推進
- ② 窓口支援システムの導入
- ③ 窓口来庁予約システムの導入
- ④ テレビ会議システムの利用開始
- ⑤ タブレットの設置（オンライン相談・遠隔手話対応）
- ⑥ Web会議室の設置
- ⑦ RPA・AI-OCRの適用拡充
- ⑧ テレワークの推進
- ⑨ ③街区・3支所におけるICTを活用した新たな窓口の設置検討

デジタル化の推進によって、市民の利便性を高めていくだけでなく、職員の対応時間を軽減することで、きめ細やかなサービス提供にも繋がります。

今後の事業展開

公民連携

■ 公民連携プラットフォーム

- ・こども夢基金事業（最先端で新たな技術の体験等）
 - ・「スマートシティ」をテーマに公民連携案件募集
- ※スマート街路灯、シェアサイクル事業は本取組に依る

■ 大阪スマートシティパートナーズフォーラム ・公民戦略連携デスク

- ・デジタルキープラットフォームを活用した事業実証

行政の取組

■ 児童・生徒一人一台タブレット配布・活用

- LINE公式アカウントを軸とした情報発信・サービス提供
- ・メニューの拡充、セグメント配信、防災機能の追加等
- ・LINEコール導入によるビデオ通話サービスの開始

■ 高齢者のICT利用促進 (スマートフォン取得支援)

■ 市庁舎におけるオンライン対応体制の充実

市民生活に浸透させるためにも、デジタル化の推進には民間リソースの活用が必須。

市民生活の快適性・利便性向上に向け、自治体DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進

※自治体DX：デジタル技術を活用して行政サービスを変革すること

行政の取組もデジタル技術の活用をベースに進め、快適な市民生活の創出を目指す。

スマートシティ化を体感できる先端技術を活用した各種実証については、再整備が進む枚方市駅周辺をメインフィールドに実施予定